

## 企業を成長させる職人の確かな技術

～ 革製品の総合メーカー・ソメスサドル～

ソメスサドルは、日本唯一の馬具メーカーとして、1964年、北海道歌志内市で創業しました。その当時、北海道では炭鉱の合理化・縮小が本格化し、炭鉱にほぼ100%依存していた歌志内市の関係者は、何とか炭鉱に代わる産業を生み出そうと苦慮していました。その頃、道内全域には北海道開拓時に活躍した馬具職人が数多く住んでおり、彼らの高度な技術を活用して輸出用馬具を作ろうとの発想が、市や地元有力者などが出資して会社を設立するきっかけとなりました。

経営は順調にスタートし、乗馬が盛んな欧米やオセアニア、さらに軍用に馬を使っていた南米など、世界各地に鞍(くら)などの馬具を輸出することができました。ところが、1970年代前半の石油ショック後に進んだ急激な円高によって輸出量が急激に減り、深刻な打撃を受けました。国内では乗馬人口が非常に少なかったため、警察官のピストルケースや自衛隊のスキー道具など、革を利用するあらゆる製品を手掛けることで窮地を乗り切りました。

そして経営が落ち着いた1980年、競馬用の鞍作りに着手しました。当時、プロ向けの馬具は長い歴史と高い技術力を持つ海外メーカーの製品しかありませんでした。



乗馬では、鞍(くら)・ブーツ・ヘルメットなどを使います。どれも安全性・耐久性が充分でなければ事故につながります。



命を預かる鞍作りを経て知り尽くした革素材の特性、革のなめし方や道具の選び方、製品の強度を最大限に高める二本針の技術などが、バッグや鞆をはじめとした私たちの身近な製品作りにも生きています。



Craftsman  
Diary  
VOL.1

品質こそが、私たちの生命線。

私たち造り手は、料理人によく似ています。素材選び、素材のどこをどう使うか、切り方、力加減、調整、仕上げなど、気を抜けるところはひとつもありません。仕事場や道具の使い勝手に神経を配ることが大切なのも、料理の世界と同じですね。仕事に対する真摯な厳しさを忘れず、絶対に妥協しない。造り手に限らず、ソメスサドルの社員は全員その姿勢をしっかりと守っています。品質こそが、私たちの生命線。そこは、徹底しているところです。

< 12 >

革製品の総合メーカーとなったいまも、ソメスサドルのこだわりは、創業当時と変わりません。2008年の洞爺湖サミットでは各国首脳への記念品として贈呈されました。頂点を意味するフランス語の「SOMMET」に通じるこの社名の実績が、またひとつ加わりました。

(出所：ソメスサドルのHP)

資料番号：4-71-1

出所：ソメスサドルHP <http://www.somes.co.jp/>

日経ビジネス(2002)『小さなトップ企業』日経BP社